

## 特集

## 座談会「わたしたちの町の図書館に望むこと」

けやき事務局メンバーが集まると、旅先で訪れた図書館や、メディアで話題の図書館の話に花が咲きます。そして今、京都市図書館でも新しい図書館のあり方を探る試みが始まっています。「わたしたちの町」に必要なのはどんな図書館？ 事務局メンバーが語り合いました。

## わたしと図書館

**I** 私は小さい時は図書館ではなく、貸本屋さんを利用していました。大きくなって、専門的な本を探すようになると、美術関係の本は愛知芸術文化センターの図書室に。県立図書館へ行けば、大体の資料はある。だから自分で図書館を選んで使っていました。

**N** 私が小学生の時、城陽市では図書館を新しく作るあいだ、仮設のプレハブのような建物になっていて、きちんと分類して本が置かれていなかった。その分、大人の本も見れたので、狭いのも良かったかもしれないと思います。難しい本も読みたかったから、学校図書館よりも市の図書館を利用してまし

たね。

**T** 私が本格的に図書館に行きだしたのは、子育てが始まってから、家の近くの左京図書館へ。そこから図書館との縁ができたんだけど、コロナで一時期閉まった時に私、すごいショックで。私の生活を、図書館とか本が大きく占めていることを実感しました。

**O** 小さい頃の図書館の記憶はあまりなくて、私も図書館を利用するようになったのは、息子が1歳の時に京都に来てから。子供たち2人は、校区外ではあっても左京図書館が近かったから、よく利用してね。だから、私も子供時代にこういう環境だったら、とちょっと羨ましかった。

**Y** 私は浦安市で育ちました。浦安市の図書館はすごく大きくて、明るくて、いいところだった。高校生の時は図書館は自習しに行くところという感覚でした。娘が1歳の時に、枚方に引っ越したんですけど、なかなか周りに馴染めなかった。そこに週3回ぐらい、数時間しか開かない図書館の分館があって、その司書さんたちにお世話になりました。あの頃、本当に暗闇の中だったので、すごく図書館に救われました。

**M** 私の最初の図書館体験は、小学校の図書室なんです。大阪の下町の小学校で、当時の公立小学校では珍しく、司書さんがいらした。その図書室に入り浸ってました。で、高校生になると、大阪府立中之島図書館の自習室に結構通ってましたね。子供の頃は、まだ、いわゆる図書館運動が司書さんたちの間で起こる前で。図書館は戦前からの流れで、学生とか研究者とか、本好きの大人が行くところだったけど、それが少しずつ変わってきて、公共図書館がどの市にも作られるようになってきた。

### 話題の図書館に行ってみて

**N** 茨木市の「おにクル」は、プラネタリウムに音楽室、会議室に、子供用の室内遊園地があって、外に出ると、芝生があって。そういう複合施設の中に「おにクルブックパーク」という図書館がある。全世代に開かれていて、集客力がある。中高生が施設内で宿題をして、騒いでもオッケー。それが魅力的だなと。

**M** 「みんなの森 ぎふメディアコスモス」にある岐阜市立中央図書館は、図書館の主なフロアは2階なんですけど、スターバックスとコンビニは1階で、完全に図書館と分かれている。開放感があって、閲覧スペースもいろんな工夫がされて。ひとりで調べ物ができる部屋や、読書会もできるグループ学習室、ソファの閲覧席。デッキチェアが屋外にあって、本をそこで読むこともできる。前に大きな広場があって、キッチンカーが出てね。「子どもの声は未来の声」がここのキャッチフレーズで、子供に静かにしろとか言わないで、親子連れ、若い人大歓迎で、みんなでこの空間を育てていこうとしている。

**M** 「オーテピア高知図書館」は、高知県立図書館と高知市民図書館本館が合体した図書館。図書の分類ごとに、テーマに沿ったチラシ、パンフレットが置いてあって。例えば、YAコーナーの「産業」の書架には、高校生や大学生に必要な、地場産業の案内や奨学金の申請書類があって、そういう工夫が面白いと思いました。1階に「声と点字の図書館 オーテピア高知」があるのもいい。録音資料がたくさんある。今ハンデを持ってない人も、これからそういう資料が欲しくなると思います。

**T** 石川県立図書館は、本でぐるりと囲まれている印象。スロープを上がっていくと、左側が書架で、右側が座席になっていて。若い人がたくさん利用していました。あと、おしゃべりしてもいいよって書いてあって、静かに読みたい人は、サイレントルームで読むことができます。

**I** 各地の素敵な図書館を見ると羨ましくなるけど、都市部は場所は限られるし、かといって図書館が高層化するのはいくらも使い勝手がよくないし。地域の特性に合わせた図書館のあり方を模索していく必要があるだろうと思います。

### 京都市図書館に目を移すと

**T** 私は醍醐中央図書館がお気に入りです。入ったところに、椅子がたくさんあって、雑誌類が充実しています。またあそこに行きたいなと思いながら、遠くてなかなか行けない。

**N** 北図書館は狭いんですけど、入ってすぐに子供のコーナーがあって。仕切りがないから、そこでイベントしてるの何やっているのか見える。飽きやすい子供でも、出たり入ったりしやすい。たくさんあるイベントは全て司書さんたちが企画されていると聞きました。

**Y** 岩倉図書館は、木がたくさん使われていて、ウッドデッキテラスがあるので、ちょっと外に出て、子供たちも本を読んだりしていい雰囲気です。テーマ展示にも力が入っていて、工夫されていると思います。

### わたしたちが望む図書館とは

**T** 図書館にはひとりで静かにゆったりいられる場所が欲しい。たとえば、出町柳駅周辺の再開発地域に左京中央図書館ができたなら嬉しいなって。おすすめの本を持ち寄って、おしゃべりできる場もあったら。あと、どんな素敵な建物ができても、やっぱり専門性を持った司書さんがいる図書館があってほしいなと思います。

**N** 高齢になって目が見えにくくなった人が、私の朗読を聞きに来てくださる方の中にも増えています。そうなった

ときに、京都はライトハウスがあるけど、近くの図書館に行きたいっていう人も多い。高齢者も障害者も行きやすいような場所に図書館はあってほしい。

**T** そうですね。居場所がない、仕事がない、病気、孤独、助けてほしい…。生きていくための拠り所となる図書館であってほしいと思います。

**Y** 京都市図書館では、これからの図書館のあり方を模索する試み（&BOOKS）が始まっていますね。

**O** 左京図書館であったクラリネットのミニコンサート、ああいう文化的なイベントが人を集めるにはいいと思いました。観客は多かったですし、子供も楽しんでたしね。

**Y** コーヒーを楽しむイベントもありました。

**I** 私は図書館の近くに喫茶店があって、借りた本を持って、コーヒー飲みながら読めたら嬉しい。街中に喫茶店がたくさんある京都で、カフェ併設の図書館を作る必要はないと思う。

**Y** 自習室はどうですか。

**I** 子供たちがいつでも来て、本を読んだり勉強したりできる空間は、図書館に必要なね。スペースの問題があるから難しいとは思いますが、そういう空間を確保することに、重きを置いてほしい。

**M** 昔、けやきがグループ学習室を作ってほしいと左京図書館に要望して、南側のベランダにテーブルと椅子を置いて、ここでは図書館の本を持って出てもいい、おしゃべりしてもいいってスペースができたんだけど、南向きで暑かったりして、結局利用があんまりなくて。

**Y** 山科図書館と醍醐図書館のリニューアル計画が動き出していますね。

**M** どちらも大型施設の中に入るようです。

**I** もっと身近に、近所の人たちが集まれる場所として、図書館の分室があるといいけど、スタッフを配置する必要は

ある。そうするとアルバイトかボランティアの人が1人か2人いるぐらい。一方で、スペースも予算も限りがある中で、これから各図書館がある程度特化していく必要がある。たとえば児童書に関しては、ここの図書館に行けば、蔵書も揃ってるし、質問しても答えられる専門の司書さんがいるという風に。一館ですべての本を揃える必要はなくなっていくんじゃないかなと思う。

**M** 20年近く前に、コンピュータネットワークで京都市図書館が繋がった時点で、それぞれの図書館がどの種類の図書を重点的に揃えるかとか、役割分担をするという方向になったけど。

**I** 結局、そうすると、地域の人には不評なんです。不便になるって意識があるから。でも、全館すべて同じ様に揃えるのは無理だからね。

**M** それぞれの館で役割分担をして専門性を持たせ、それを市としてトータルにまとめる。その上で、それぞれの館の地元の人が満足できて。そうすると「アルバイトしかない分室」では、その役割が担えない。

**Y** やっぱり近くにあるっていうのはすごい魅力ですよ。うちから岩倉図書館は歩いて10分ぐらいなので、私にとっては近いんですけど、足の悪い母にとっては遠すぎる。

**I** 近くにあるっていうことを優先すると、一館の規模は小さくなるということは前提にしないと。

**M** どの規模の図書館でも、ゆったり過ごしたいと思えるような居心地の良さがほしいですね。そして、公共図書館の本来の役割は、全ての市民の知る権利を保障すること。司書さんが利用者と本をきちんと繋いでくれる、そんな図書館を望みます。

2025年12月5日 左京合同福祉センター3階会議室

出席：石川-I 中原-N 田中-T 奥坂-O 山口-Y 永井-M

けやき  
の  
本 棚

No.75

### 猫を処方いたします。

石田祥著 PHP 文芸文庫 2023年

この本は、京都の路地裏にあるメンタルクリニックと、悩みをもった患者さん達のお話です。この病院で処方されるのはタイ

トルの通り、本物の猫。「大丈夫ですよ、だいたいの悩みは猫で治りますから。」

戸惑いながらも決められた期間、猫と過ごすうちに患者さんたちの心も少しずつ変化していきます。

あなたも、可愛らしい猫達と心温まるストーリーに癒されませんか？ (中2 すずき)



## REPORT 2025 年度

### 左京図書館読み聞かせ交流会

読書の秋恒例の「読み聞かせ交流会・絵本入門講座」は今回で21回目です。小学校の読み聞かせボランティアを中心に、絵本に関心を持つ人たちが参加されました。

#### 第1回 絵とテキストから読み解く

行きて帰りし『ものがたり絵本』

講師 中川あゆみさん（名古屋葵大学教授）

10月15日

読み聞かせ交流会第1回は、毎年参加者から定評のある、名古屋葵大学児童教育学部教授の中川あゆみ先生の講演会でした。

左京図書館作成の掲示ポスターやチラシに誘われ、左京区南部各小学校の読み聞かせボランティアさんだけでなく、左京図書館利用者からも多数のご参加がありました。

今回のタイトルは「絵とテキストから読み解く行きて帰りし『ものがたり絵本』～行き先で出あうもの～」。

まず中川先生は、子どもは発達段階ごとに絵本の読み方が異なることを説明。まだ字が読めない子は、絵を読んでいる。だから絵から物語を読み取る力を発揮できる。そして、その絵本に書いてある字を読んでくれる大人に信頼感を持つ、と話されました。

続いて「行って帰るものがたり」の例を挙げ、先生みずから、その構造を持つ絵本の読み聞かせをしてくださいました。

絵本の中で「行って帰る」とは「ひとり遊びの世界」、すなわち、「想像の世界」を構築する経験ができる。

想像力を豊かにする経験は、将来の「生きる力」となり、仲間と共に助け合い、自分でも解決法を「想像して」探し

ていく、人生を簡単にあきらめない力を養う源だと、あらためて感じ入りました。

そして、「もりのなか」「かいじゅうたちのいるところ」「めっきらもっきらどおんどん」の絵本を使って、参加者を数人単位のグループに分けて、ミニワークショップを行いました。

ただ講演を聞くだけでない、参加者同士の絵本に対する意見交換もできた有意義な会となりました。（中原）

#### 第2回 前半 やってみよう！読み聞かせ

講師 倉本副館長（左京図書館）

後半 科学絵本・科学読み物ブックトーク

講師 島崎真紀子さん

（京都科学読み物研究会会員）

10月24日

交流会2回目は、絵本の選び方・読み方講座と科学絵本・科学読み物ブックトークの2本立てです。

まず、左京図書館副館長の倉本さんが、読み聞かせの基本をレクチャー。おはなし会に向く絵本の5つの条件を示したうえで、本によってはこの条件を満たしてなくても、おはなし会で使えることを、実際の絵本を見せて説明されました。また、ページをめくるスピードも物語の一部になる、登場人物によって声色を変えないといったアドバイスも。

さらに、おはなし会は季節感が大切で、左京図書館の絵本コーナーには季節の絵本を展示しているので、活用してほしいと話されました。

後半は島崎さんによるブックトークです。今回のテーマは「雪・霜・氷～姿を変える水のふしぎ」。実験をはさみながら、20冊余りの本を紹介されました。

まずは雪と氷の写真絵本を2冊。続いてつらら、しもばしらと、様々に姿を変えた水に関する本が登場。しもばし

#### ぼくの文章読本

荒川洋治著 河出書房新社 2024年

現代詩作家がこれまでに「文章を書くことについて」つづいたエッセーなどから55編をまとめています。出てくる言葉は平易ですが、中身は決してやさしくありません。『文章の書き

方』なんていう本はあまり読まない方がいいと思う。自分は文章が書ける、という前提でものをいう神経のずぶとい人たちの言葉だからまず信用できない」。ところどころでこんな一文に出合い、背筋が伸びます。（左京区 R）

らについて書かれた3冊の絵本を例にあげて、ひとつのテーマに対して複数の本を子どもに提示することが大切と話されました。

また、かつて図書館で出会い、折に触れ読み続けているという、ボリュームのある科学絵本『ひとしずくの水』を紹介。このような情報量の多い本は、興味があるところだけを読んでもよい、その後、経験や知識を得て読み返すと、飛ばしたところも「こういうことだったのか」と気づく。一冊の本と長く付き合っていけばよいと話されました。

また研究者の伝記やエッセイを通して、研究対象に対する情熱を知ること、例えば雪の研究に没頭した人の人生を知ること、子どもの科学に対する関心を高めることがわかりました。

冬に向かう季節にぴったりの講座となりました。(澤田)

### 第3回 小グループに分かれて絵本の読み語り実践交流

10月31日

読み聞かせ交流会3回目は、小学校で読み聞かせをしている人や絵本に関心のある人たちによる実践交流です。初めての方からベテランまで総勢16名が参加しました。

前半は、3つのグループに分かれ、一人8分の持ち時間で、順に活動歴や選書の理由を話して持参した絵本を読んでもいきました。そして、その本について読み手の感想、聞き手の感想、気付いたことなど活発な意見交換をしました。読み手は、大人の前なので緊張しますが、聞き手は、絵に集中することで、笑ったり、はらはらしたり、はっとしたりと童心に返り、読んでもらう楽しさを存分に味わうことが出来ました。

後半は、全員が集合して、各グループの代表が読んだ本や話し合った内容を発表し、共有しました。色々なジャンルの本が並び、選書の方法、読み方や見せ方の工夫やコツ、

子ども達の反応への対応など実践に役立つ内容でした。

参加者からは、「初参加で緊張したが、楽しかった」、「他の人の読み方が勉強になった」、「知らない本にたくさん出会えた」、「読んでもらえるのが新鮮で楽しめた」、「自分の読み方に意見がもらえるので有難い」、「選書に悩んでいたが、参考になった」との感想がありました。

和気あいあいとした暖かな雰囲気の中、参加者それぞれが何かを感じ、次への活動につながる有意義な時間となりました。(山口)

### けやきの活動記録

2025年9月～2026年1月

9/26 第2回左京区地域福祉推進委員会出席

10/15 読み聞かせ交流会 第1回開催

10/24 読み聞かせ交流会 第2回開催

10/31 読み聞かせ交流会 第3回開催

12/5 ニュースレター特集座談会実施

12/6 大人のための語りを楽しむ会

1/16 ニュースレター75号 印刷・発送

<事務局会議><図書館とのミーティング> (主に第1金曜日)

10/3、11/7、12/5、1/16(事務局会議のみ)

<図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜日 11:00～11:30)

9/27、10/25、11/22、12/27

<絵本学習会> (第4金曜日、3,7,12月は第2金曜日、8月は休み)

9/26、10月は絵本入門講座と重なり休み、11/28、12/12

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>

(毎月第3木曜日 10:30～12:00)

10/16、11/20、12/18、1/15

### 星をみつめて 京大花山天文台から

花山宇宙文化財団・京都新聞出版センター編  
京都新聞出版センター 2020年

この本は新聞コラムをまとめたものです。神秘的で不思議に満ちた宇宙は、平安の人々から現代の私たちに至るまで、たくさんの人を魅了してきました。京都でもオーロラが見えた?ウ

ルトラマンの星はどこ?日本で最初に望遠鏡を作った人は誰?など、天体現象や星、天文を研究した人々についていろいろな視点から紹介されており、読んだ後誰かに話したくなる一冊です。

(左京図書館 金原)

## 図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

### 次のような活動をおこなっています

#### であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。  
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

#### 「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

#### 誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

#### ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

#### 事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

#### 絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

#### 講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

ゆうちょ銀行総合口座 記号 14410 番号 50328731 または 店名 四四八(ヨンヨンハチ) 普通預金 5032873 「図書館友の会 けやき」	京都銀行 普通預金口座 高野支店(店番号143) 3493569 「図書館友の会けやき」 会計 中原敦子
--	---

◆入会・活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。

◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。  
ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

## けやき情報版

### 図書館友の会けやき・左京図書館 共催事業 西村友里さん講演会「童話作家の舞台裏」

京都市内の小学校に勤務しながら、創作活動を続けた西村さんを講師に迎え、講演会を実施します。

日時 2026年1月31日(土)

13時30分～15時30分(開場 13時)

会場 左京合同福祉センター3階会議室(左京図書館上階)

定員 70名 無料 申し込み不要・先着順

#### 図書館で発表会

図書館の資料を使ってカタチにした作品を、図書館で発表してみませんか？

作品受付 2026年1月15日～2月15日

作品展示 2026年2月26日～3月16日

参加希望の方は、左京図書館カウンターまで作品をお持ちください。

赤い羽根共同募金



ニュースレターは赤い羽根共同募金からの助成を受け作成しています。

## 編集後記

「居心地」、「居場所」。図書館を語る今回の座談会で、たびたび登場した言葉です。「居場所」には、居住地という意味だけでなく「落ち着いていられる環境」という意味もあると辞書にありました。どんな場所が落ち着くかは人によってさまざま。できるだけ多くの人が居心地よく感じる図書館であってほしいと思います。(澤田)

身近な図書館に皆さんはどんな望みをお持ちですか。他都市の魅力的な公共図書館を参考にしつつ、自分たちの町の図書館がどうあってほしいか、今回の特集をきっかけに考えて頂ければと思います。そして市民みんなのためのよりよい図書館を、と集う私たちけやきの活動にもぜひご参加ください。(島崎)

◇けやき 第75号 2026年1月16日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部  
題字: 吉政 富美子 デザイン: 伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

HP : <http://totomo-keyaki.com>

Mail : [info@totomo-keyaki.com](mailto:info@totomo-keyaki.com)